

世界防災フォーラム セッションリスト(メディア向け)

プログラム番号	会場	開催日	開催時間	セッションタイトル	主催団体名	共催団体名	パネルディスカッション	概要	登壇者カテゴリー	登壇者名	登壇者所属	メディア対応窓口	メディア対応窓口E-mail	メディア対応窓口TEL	取材可否	取材英語対応可否	取材に関する備考
1	川内萩ホール(ホール)	11月26日(日)	16:00-17:30	NHKシンポジウム「命を守る」防災情報	NHK		NHKシンポジウム「命を守る」防災情報	災害発生時における防災情報のあり方を、発信する側と受信する側の双方の立場で議論するとともに、平常時の防災情報、防災啓発について、行政やマスコミはどのような情報を発信すれば、市民の意識改革や備えを進めてもらえるのかを考える。セッションは収録を行い、NHKで放送予定。<放送予定> 2018年3月10日(土) NHK「TVシンポジウム」14:00~14:59(Eテレ)	パネリスト パネリスト パネリスト パネリスト 司会	今村 文彦 大西 勝也 昆野 龍紀 サッパシー アナワット 山崎 登 阿部 渉	東北大学 災害科学国際研究所 所長 高知県 黒潮町町長 株式会社 ラヂオ気仙沼 代表取締役 東北大学 災害科学国際研究所 准教授 国士館大学教授(元NHK解説委員) NHKアナウンサー	NHK仙台放送局 広報・事業部 藤田和彦	fujita.k-jg@nhk.or.jp	022-211-1016	可	不可(備考)	事前不可。当日はセッション受付にて可。
2	大ホール(Room1)	11月26日(日)	12:50-14:20	「より良い復興」の実践的な取り組みと今後の方向性	仙台市防災環境都市推進室		TBD	仙台防災枠組では、災害リスク削減等に向けた多様なステークホルダーの関与の重要性が強調されるとともに、「より良い復興(Build Back Better)」の考え方が示された。東日本大震災からの本市の復旧・復興過程においては、市民や地域の力に裏打ちされた多様な防災・減災の取り組みが大きな推進力となったところであり、インフラ整備以外の取り組みや仕組みづくりも紹介しながら、「より良い復興」のあり方について考えます。	講演者 コーディネーター パネリスト パネリスト パネリスト パネリスト	郡 和子 板橋 恵子 菅井 茂 立岡 学 高山 智行 梅内 淳	仙台市長 エフエム仙台防災・減災プロデューサー 若林区南材地区町内会連合会 会長 一般社団法人パーソナルサポートセンター 常務理事 HOPE FOR project 代表 仙台市まちづくり政策局次長兼政策企画部長	仙台市防災環境都市推進室 渡	mac001605@city.sendai.jp	022-214-8098	可	回答なし	
3	大ホール(Room1)	11月26日(日)	14:40-15:40	防災の学術動向	Elsevier			科学と技術は防災において重要な役割を持っているが、リスクを下げ、レジリエンスを高める地域の知恵の伝承のように、埋めなければならない知識の溝が未だに存在している。 このセッションでは世界防災フォーラムにおいて封切られる世界的レポート“A Global Outlook on Disaster Science”に基づき、主な研究結果を紹介するとともに、防災枠組が兵庫枠組から仙台枠組へと移るにあたって、科学にとつての優先事項は何か、世界の専門家とディスカッションを行う。	講演者 講演者 講演者 講演者 モデレーター	Karlsson Anders McBean Gordon Tremewan Christopher Imamura Fumihiko Izumi Takako	Vice President Academic Relations, Global Strategic Networks, Asia Pacific, Elsevier President, International Council for Science (ICSU) Secretary General, Association of Pacific Rim Universities (APRU) Director, International Research Institute of Disaster Science (IRIDeS), Tohoku University Associate Professor, International Research Institute of Disaster Science (IRIDeS) Tohoku University, Japan APRU Multi-Hazards Program Director	Ludvine Allagnat/ルディビーン アラニヤ	lallagnat@elsevier.com	81 80 (9098) 4252	可	可	
4	大ホール(Room1)	11月26日(日)	16:20-17:50	被災地からの経験・教訓の共有と継承ー東日本大震災を中心に	宮城県(震災復興推進課・危機対策課)		被災地からの経験・教訓の共有と継承ー東日本大震災を中心に	害においてどのように活かされたのか、また、今後の災害において同じ犠牲や困難を繰り返さないための教訓の共有・継承のあり方について有識者をはじめ行政・NPO等関係者による意見交換を行う。	パネリスト パネリスト パネリスト パネリスト コーディネーター	佐藤 翔輔 重川 希志依 藤間 千尋 牧 紀男 ワケテンドルフ トリシア 伊東 昭代	東北大学災害科学国際研究所 常葉大学大学院環境防災研究科 公益社団法人みらいサポート石巻 京都大学防災研究所 デラウェア大学 宮城県震災復興・企画部	宮城県震災復興・企画部 山崎 賢治	yamazaki-ke663@pref.miyagi.jp	022-211-2412	可	不可	海外メディア(英語対応)の不可 但しメールでの問い合わせには対応可
5	萩(Room3)	11月26日(日)	16:20-17:50	トーク×トーク 女性たちのリーダーシップ2017	仙台市男女共同参画課、公益財団法人せんだい男女共同参画財団			「仙台防災枠組」で復興・まちづくりを担う重要な主体とされた女性。次の災害をより良く生き延びるには、女性があらゆる意思決定の場に画することが必須である。様々な分野で力を発揮する女性たちに焦点を当て、「平時」の女性のリーダーシップについて明らかにする。	スピーカー スピーカー スピーカー コーディネーター	榊原 進 田中 正子 池田 恵子 木須 八重子	特定非営利活動法人 都市デザインワークス 代表理事 くまもと県民交流館バレア 男女共同参画センター 主幹 減災と男女共同参画 研修推進センター(GDRR)共同代表、静岡大学教育学部教授/同大学防災総合センター兼任教員 公益財団法人せんだい男女共同参画財団 理事	柴田由紀 仙台市 市民局 男女共同参画課 課長	sim004180@city.sendai.jp	022-214-6143	可	可	
6	白樺1(Room6)	11月26日(日)	12:40-14:10	高齢・障がい(共生社会)と地域防災	東北福祉大学	仙台市、仙台市障害者福祉協会		『仙台防災枠組』には初めて障害者とその組織がステークホルダーの役割に位置づけられました。また、心のバリアフリーを推進し、共生社会の実現を目指すことが『ユニバーサルデザイン2020 行動計画』に明記されています。本セッションでは、防災における高齢者と障害のある方々の生活について、これからの地域の在り方を考えます。	パネリスト パネリスト パネリスト パネリスト コーディネーター	立木 茂雄 阿部 一彦 松渡 忠男 高橋 誠一 三浦 剛	同志社大学 東北福祉大学 東北福祉大学 東北福祉大学 東北福祉大学	阿部、佐藤	rabe@tfu-mail.tfu.ac.jp	022-717-3359 (直通:東北福祉大学 実学臨床教育推進室)	可	メールのみ可	
7	白樺1(Room6)	11月26日(日)	14:30-16:00	多文化社会と防災 多様な主体によるグッド・プラクティス	仙台市交流企画課・公益財団法人仙台観光国際協会			グローバル化の進展に伴い、災害時の外国人支援、外国人との協働が重要な課題となっています。このセッションでは、「多文化と防災」というテーマでグッド・プラクティスを共有し、多様な主体による防災の取り組みについて考えます。	コーディネーター コメンテーター パネリスト パネリスト パネリスト	菊池 哲佳 横田 宗親 小松 バトリシア 鑑美 野上 恵美 八木 浩光	公益財団法人仙台観光国際協会 一般財団法人自治体国際化協会 栃木県国際サポートセンター ベトナム夢KOBÉ 一般財団法人熊本市国際交流振興事業団	(公財)仙台観光国際協会(交流コーナー) 菊池	a-kikuchi@sentia-sendai.jp	022-265-2471	可	可	担当が不在の場合(公財)仙台観光国際協会 須藤 TEL: 022-268-6260
8	白樺1(Room6)	11月26日(日)	16:20-17:50	心の復興を支える「文化力」の仕組みを探る〜心をつなぎ 力をつなぐ〜	仙台市文化振興課		心の復興を支える「文化力」の仕組みを探る	東日本大震災後の文化芸術による被災地支援の事例から、文化芸術が果たした社会的役割を検証するとともに、継続的かつ効果的な支援を可能とする組織のあり方や社会的な仕組みの構築等について考えます。	パネリスト パネリスト パネリスト	大澤 隆夫 菊川 穰 福本 ともみ	公益財団法人音楽の力による復興センター・東北代表理事 一般社団法人エル・システマジャパン 代表理事 サントリーホールディングス株式会社 執行役員 コーポレートコミュニケーション本部長	仙台市文化振興課 平石奈央	nao_hiraishi@city.sendai.jp	022-214-6139	可	回答なし	
9	白樺2(Room7)	11月26日(日)	14:30-16:00	市民協働と防災	仙台市市民協働推進課			「仙台防災枠組2015-2030」では、防災・減災の推進には、市民、地域団体等が主体的に取り組むを進め、コミュニティの能力を強化する重要性が明記された。東日本大震災で顕在化した課題に対する市民活動団体による取り組みや、多様な主体の連携の事例などを発信する。	講演者 講演者 講演者 ファシリテーター	鹿野 順一 遠山 賢一郎 菅野 拓 遠藤 智栄	特定非営利活動法人いわて連携復興センター 代表理事 / 特定非営利活動法人@リアSNPOサポートセンター 代表理事 一般社団法人ふくしま連携復興センター 事務局長 阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター 主任研究員 / 一般社団法人パーソナルサポートセンター 理事 地域社会デザイン・ラボ 代表 / 一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム 理事	仙台市市民協働推進課 課長 上田 正人	masato_ueda@city.sendai.jp	022-214-6136	可	可	
10	白樺2(Room7)	11月26日(日)	16:20-17:50	持続可能な防災まちづくりと防災人材育成	東北大学災害科学国際研究所	片平地区まちづくり会	片平流防災まちづくり	まちづくり活動の中に防災活動を位置づけ、多様な人材の参画と若い人材の育成に取り組んでいる仙台市片平地区の活動を紹介し、持続可能な防災活動のロールモデルについて議論する。	コーディネーター パネリスト パネリスト パネリスト パネリスト パネリスト コメンテーター	桜井 愛子 今野 均 堀野 正浩 柳谷 理紗 溝井 貴久 片平子どもまちづくり隊 片平地区まちづくり会 佐藤 健	東洋英和女学院大学 片平地区まちづくり会 公益財団法人 仙台観光国際協会 片平地区まちづくり会 片平地区まちづくり会 片平地区まちづくり会 東北大学災害科学国際研究所						

世界防災フォーラム セッションリスト(メディア向け)

プログラム番号	会場	開催日	開催時間	セッションタイトル	主催団体名	共催団体名	パネルディスカッション	概要	登壇者カテゴリー	登壇者名	登壇者所属	メディア対応窓口	メディア対応窓口E-mail	メディア対応窓口TEL	取材可否	取材英語対応可否	取材に関する備考	
11	小会議室 (Room8)	11月26日(日)	12:50-14:20	世界と日本における災害レジリエンスを高める合意形成プロセス～多様性とジェンダー視点から～	男女共同参画と災害・復興ネットワーク	防災・減災CSO 日本ネットワーク (JCC-DRR)、UN Women (ジェンダー平等と女性のエンパワメントのための国連機関) 後援団体 独立行政法人国際協力機構 (JICA) (ICA)	災害レジリエンスを高める合意形成プロセス	災害にレジリエントな復興まちづくりには、災害に対する脆弱性が高い女性、高齢者、障害者などのニーズを包摂する合意形成プロセスが不可欠である。世界及び日本で多様な人々が参加する地域の協力システムや人間的な復興がどのように可能かについて考える。	開会挨拶	堂本 暁子	男女共同参画と災害・復興ネットワーク 代表	小美野 剛/田中由美子/JCC-DRR事務局	t.komino@cwswsapan.org/yumibamiyan@gmail.com	+81-(0)3-6457-6840/080-2011-7401	可	可		
									開会挨拶	安達 一	独立行政法人国際協力機構 (JICA) 社会基盤・平和構築部長							
									講演者	大沢 真理	東京大学社会科学研究所 所長							
									パネリスト	スタインバック ラヘル	U N Women (ジェンダー平等と女性のエンパワメントのための国連機関) 災害リスク削減と人道支援プログラム専門家							
									パネリスト	李 善姪	東北大学東北アジア研究センター 教育研究支援者							
									パネリスト	スティール 若希	東京大学社会科学研究所 准教授							
									モデレーター	小美野 剛	CWS ジャパン事務局長							
モデレーター	田中 由美子	城西国際大学招聘教授、男女共同参画と災害・復興ネットワーク運営委員、JICA シニアジェンダーアドバイザー																
12	大ホール (Room1)	11月27日(月)	10:45-12:15	持続可能な開発に向けた防災への事前投資	独立行政法人国際協力機構 (JICA)			フランス・ゲスキエール 世界銀行 防災グローバルファンシティ 事務局長 “事前の備えにより、災害から人と財産を守る”。日本が古来より取り組んできた防災への「事前投資」は国際的に高く評価され、仙台防災枠組では優先行動の1つと位置づけられました。開発途上国でも防災への事前投資の促進に向けて歩み始めています。3か国の防災関係閣僚や政府高官、日本の被災地首長、JICA、世界銀行が顔を合わせ、途上国でいかに防災への事前投資を実現するか、道筋を描きます。	主催者挨拶	山内 邦裕	JICA 地球環境部部長	小林 千晃 独立行政法人国際協力機構 (JICA)、地球環境部 防災グループ 防災第一チーム	kobayashi.chiaki@jica.go.jp	-14736	可	可		
									モデレーター	竹谷 公男	JICA 上席国際協力専門員							
									パネリスト	ヘルソン マルティネス	エルサルバドル共和国 公共事業・運輸・住宅・都市開発大臣							
									パネリスト	アドラシオン ナバロ	フィリピン国家経済開発庁次官							
									パネリスト	ハグワスレン サヤナー	モンゴル国政府 副首相顧問							
パネリスト	阿部 秀保	前東松島市長																
13	萩 (Room3)	11月27日(月)	9:00-10:30	防災の主流化に向けた防災対策と防災投資評価のあり方	バシフィックコンサルタンツ株式会社			開発途上国における防災への取組みの現状について理解を深め、防災対策のあり方を考えた上で、事前の防災対策への投資の有効性や意義等の評価のあり方について議論する。	講演者・パネリスト	Sanny Jegillos	国連開発計画	国内メディア担当: 和田裕行/海外メディア担当: 伊藤拓也	国内: hiroyuki.wada@tk.pacific.co.jp 海外: takuya.itou@ss.pacific.co.jp	国内: 03-6777-4468、(携帯)090-5991-7031 海外: 03-6777-3733、(携帯)080-7958-7127				
									講演者・パネリスト	湧川 勝己	一般財団法人 国土技術研究センター							
									講演者・パネリスト	横松 宗太	京都大学 防災研究所							
									ファシリテーター	小池 俊雄	水災害・リスクマネジメント国際センター							
14	萩 (Room3)	11月27日(月)	10:45-12:15	仙台における防災・減災ドローンの安全で持続可能な運用に道を開くために～仙台市、NTTドコモ、ドローンテックラボ仙台の連携による取り組み	一般社団法人ドローンテックラボ仙台・仙台市・NTTドコモ東北支社		仙台市においては、震災の教訓を踏まえ、防災減災に向けた取り組みとして、ドローンを活用し、防災・減災に役立つシステムの確立を図るべく、官民連携による実証実験が実施されている。本セッションでは、取組の概要と課題、そして今後の方向性について報告を行う。	講演者	中野 賀枝子	仙台市まちづくり政策局 政策企画部 プロジェクト推進課長								
								講演者	山田 広之	NTT ドコモ東北								
								講演者	白岩 靖史	仙台市経済局産業振興課長								
								講演者	佐々木 賢一	一般社団法人ドローンテックラボ仙台代表理事								
15	萩 (Room3)	11月27日(月)	13:45-15:15	災害リスク削減に向けたICTの役割～富士通のICTソリューションによる未来を描く～	富士通株式会社		このセッションでは災害リスク削減 (DRR) の分野における富士通の最先端技術を紹介し、DRRを中心としたヒューマン・セントリック・インテリジェント・ソサイエティに向けたICTの役割について、技術的側面での徹底した議論が行われています。ハイパフォーマンス・コンピューティング、AI、ビッグデータ等による富士通のソリューションと取組み、及びこれらの技術を活用した未来社会について探ります。さらに津波被害軽減に向けた最新の産学連携プロジェクトについて紹介を行います。	講演者	有山 俊朗	富士通株式会社								
								講演者	大石 裕介	株式会社富士通研究所/東北大学災害科学国際研究所								
16	萩 (Room3)	11月27日(月)	15:30-17:00	東日本大震災からの復旧・復興の取り組み～インフラ・まちづくりを中心として～	国土交通省東北地方整備局	一般社団法人 東北地域づくり協会	東日本大震災から6年、被災地の復旧・復興は着実に進展している。発災時からこれまでを振り返り、どのように復旧・復興に取り組んできたか、インフラ・まちづくりを中心に「より良い復興(ビルド・バック・ベター)」の取り組みを報告する。 また、復興と同時に、震災を風化させず、伝承していくことも重要であり、各地域で行われている震災伝承の取り組みもあわせて報告する。	講演者	津田 修一	国土交通省東北地方整備局 局長	平石 道 (企画部 防災対策技術分析官)	hiraishi@s2ac@milit.go.jp	022-225-2171 (内線3141)	可	不可			
								コーディネーター	丸谷 浩明	東北大学災害科学国際研究所 教授								
								パネリスト	戸羽 太	陸前高田市市長								
								パネリスト	亀山 紘	石巻市長								
								パネリスト	加藤 憲郎	新地町長								
17	萩 (Room3)	11月27日(月)	17:15-18:45	災害レジリエンス高度化のための多セクター連携と金融イニシアティブ	株式会社日本政策投資銀行		社会の総合的な災害管理能力を向上するためには、予防的アプローチを前提に、多セクター間の連携や創意工夫ある社会技術の開発が必要である。本セッションでは、DBJが開発してきた災害管理の金融技術(例えばBCM 格付融資、危機対応、復興ファンド等)の紹介と、顧客企業や産業界の災害レジリエンス向上に資する内閣府をはじめとする各官庁との政策連携事例を取り上げ、議論する。	講演者	渡辺 研司	国土交通省東北地方整備局 企画部長								
								講演者	佐谷 説子	内閣府 政策統括官(防災担当)付 参事官(普及啓発・連携担当)								
								講演者	浅野 大介	経済産業省 大臣官房 政策審議室 企画官								
								講演者	寺谷 俊康	厚生労働省 医系技官(原子力規制庁 長官官房 放射線防護グループ 放射線防護企画課 企画調査官)								
								講演者	白出 雄太	株式会社白謙蒲鉾店 常務取締役 総合管理本部 本部長								
								講演者	内田 浩幸	佐川急便株式会社 東京支社 取締役 総務・CSR 推進担当								
								講演者	蛭間 芳樹	株式会社日本政策投資銀行 サステナビリティ企画部 BCM 格付主幹								
18	桜1 (Room4)	11月27日(月)	9:00-10:30	(仮題)東日本大震災時の女川原子力発電所～現場からの報告～	東北電力株式会社	TBD	・東北電力の沿革と概要 ・東日本大震災による東北電力施設の被害状況 ・東日本大震災時の女川原子力発電所の状況 ・女川原子力発電所における安全性向上に向けた取り組み・原子力防災への取り組み	講演者	菅原 勲	東北電力株式会社 女川原子力発電所 所長代理								事前の取材は不可。当日は別途相談。
19	桜1 (Room4)	11月27日(月)	10:45-12:15	第16回アジア地域の巨大都市における安全性向上のための新技術に関する国際シンポジウム (USMCA) - 「触れる地球」とグローバルリスク	東京大学生産技術研究所 都市基盤安全工学国際研究センター (ICUS) (USMCA 実行委員会)		「触れる地球」とは次世代のインタラクティブなデジタル地球儀である。本セッションでは、「触れる地球」の開発者である竹村真一氏を迎え、グローバルリスク情報の共有と災害による被害軽減のための将来的な可能性について議論する。また世界防災フォーラムのサイドイベントとして開催された「第16回アジア地域の巨大都市における安全性向上のための新技術に関する国際シンポジウム」を総括する。	講演者	竹村 真一	NPO 法人 ELP (Earth Literacy Program)	村尾修 東北大学災害科学国際研究所	muraos@irides.tohoku.ac.jp	022 752 2125	可	回答なし			
								パネリスト	目黒 公郎	東京大学生産技術研究所								
								パネリスト	村尾 修	東北大学災害科学国際研究所								

世界防災フォーラム セッションリスト(メディア向け)

プログラム番号	会場	開催日	開催時間	セッションタイトル	主催団体名	共催団体名	パネルディスカッション	概要	登壇者カテゴリー	登壇者名	登壇者所属	メディア対応窓口	メディア対応窓口E-mail	メディア対応窓口TEL	取材可否	取材英語対応可否	取材に関する備考	
20	桜1(Room4)	11月27日(月)	13:45-15:15	災害科学の学際研究の推進と国際社会への貢献	Association of Pacific Rim Universities (APRU) and Tohoku University			本セッションでは、防災への取組における科学技術の導入について、その研究の必要性を概観するとともに、災害科学に関する学際研究の強化について議論する。講演者・パネリストは、学術機関や国際機関から招聘する予定であり、異なるステークホルダー間での効果的な連携や、いかに学際研究が災害に強い社会の構築、仙台防災枠組の実施に寄与するかといった点について、これまでの経験等に基づいた議論を行う。	講演者	Satomi Susumu	President, Tohoku University							
									講演者	Tremewan Christopher	Secretary General, APRU							
									講演者	Imamura Fumihiko	Director, IRIDeS of Tohoku University							
									講演者	Sen Li Wei	Executive Director, APEC Emergency Preparedness Capacity Building Center (EPCC)							
									講演者	Pang Gwendolyn	Head of Country Cluster, Country Cluster Support Team, IFRC Beijing							
									講演者	Alexander David	Professor, University College of London							
									講演者	Lestari Fatma	Professor, University of Indonesia							
									講演者	Takakura Hiroki	Professor, Tohoku University							
									講演者	Hayasaka Tadahiro	Professor, Tohoku University							
									モデレーター	Shoenleber Christina	Director (Policy and Programs), APRU							
21	桜1(Room4)	11月27日(月)	15:30-17:00	東京海上グループ・東北大学産学連携フォーラム	東京海上日動火災保険株式会社	東北大学 災害科学国際研究所、アジア太平洋金融フォーラム 協力団体: 東京海上日動リスクコンサルティング株式会社	アジア太平洋地域における災害に負けない社会づくり～科学と保険の力	本フォーラムでは、学界、保険、政府機関等のエキスパートがそれぞれの最新の災害リスクマネジメントナレッジを共有し、次の巨大自然災害への財務的な備えをどの様に築くべきか、具体的な方策を議論し、提案します。	講演者	今村 文彦	東北大学災害科学国際研究所 所長・教授	土方美希(ひじかた みき)	mailgw04@tmnf.jp	03-5223-1552	可	回答なし	公開セッションへの切り替え要望あり。2017/11/16	
									パネリスト	フランシス ゲスキエール	世界銀行 防災グローバル・ファシリティ 事務局長							
									パネリスト	藤井 大輔	財務省国際局 調査課長							
									パネリスト	ジュリアス・シーザー バレリニヤス	アジア太平洋金融フォーラム コーディネーター							
									パネリスト	今村 文彦	東北大学災害科学国際研究所 所長・教授							
									パネリスト	長村 政明	東京海上日動火災保険株式会社 経営企画部 部長兼CSR 室長							
									モデレーター									
22	桜1(Room4)	11月27日(月)	17:15-18:45	「ソーシャルプラットフォーム」の活用で進化する「防災」	フェイスブック ジャパン			日々のコミュニケーションツールとしてだけでなく、自然災害発生時においてもソーシャルメディアの活用と重要性は近年高まっています。本セッションでは、災害時における安否確認や情報収集、相互支援ができるFacebookの防災・災害対策機能や、メディア(岩手日報)や防災団体(防災ガール)によるソーシャルメディアの有効活用事例など、ソーシャルプラットフォームが提供する防災対策・災害時支援についてご紹介します。	講演・パネリスト	下村 祐貴子	フェイスブック ジャパン	フェイスブック ジャパン/広報代理 柳澤マヒール 松林/伊瀬/浜永	facebook_japan@ozma.co.jp	03-4531-0220	可	可		
									講演・パネリスト	鹿嶋 敏和	岩手日報社							
									講演・パネリスト	中西 須瑠化	防災ガール							
									講演・パネリスト	筒木 愛美	防災ガール							
									講演・パネリスト	山口 琢也	フェイスブック ジャパン							
23	桜2(Room5)	11月27日(月)	9:00-10:30	Bridging the information and knowledge gaps	ESCAP			自然災害は頻度とその激しさを増し、災害リスクはアジア・太平洋地域におけるレジリエンスを上回つつある。"The Asia-Pacific Disaster Report 2017"によると、災害に備える、あるいは対応する最低限のキャパシティを持つ国々には大きな災害被害をもたらされる。これに関して、本セッションでは、高リスク・低キャパシティである国々において、特定の脆弱性や災害リスクに晒されることを考慮したマルチ・ハザード・リスクのアセスメントを行える能力を強化することを狙いとする。セッションは、ナレッジと情報の格差を取り上げ、高リスク・低キャパシティである国々のマルチ・ハザード・リスク・アセスメントの能力を強化することを目指す。	講演者	Karna Suman	Chief, Special Unit for Flood Reconstruction Project, National Reconstruction Authority, Nepal							
									パネリスト	Hadi Daryaei Mohammad	Deputy for International Aff airs, Management and Planning Organization, Office of the President, Islamic Rep. of Iran							
									パネリスト	Sethuthinam Balachandran	Director, Regional Meteorological Centre Chennai, Indian Meteorological Department							
									パネリスト	Kim JinYoung	Senior Researcher, National Disaster Management Research Institute (NDMI), Republic of Korea							
									講演者	Shaw Rajib	Keio University							
24	桜2(Room5)	11月27日(月)	10:45-12:15	MIRAI ーマルチセクター課題解決イニシアチブ	Japan CSO Coalition for DRR (JCC-DRR)	東北大学 災害科学国際研究所		MIRAI (Multisector Initiative for Research, Action, and Impact) は、研究者・NPO/NGOなどの実務家・民間企業等が丸となって、今日世界が直面している災害リスクに対し解決策を提示していくこととする研究・アクションネットワーク構想である。日本には学術研究機関に所属する実績豊富な研究者がおり、民間企業による技術革新や、地域に根ざした市民ネットワークも存在する。MIRAI は、我々の社会が有しているこのような資源を活用して未解決課題の解決を図ろうとする構想である。	講演者	Ohashi Masaaki	Japan CSO Coalition for DRR / University of Sacred Heart							
									パネリスト	Komino Takeshi	Japan CSO Coalition for DRR / SG CWS Japan / ADRRN							
									パネリスト	Uchida Ikue	ADRRN Regional Innovation Coordinator							
									パネリスト	Koike Toshio	Director ICHARM and Chair, IRDR Japan National Committee							
									パネリスト	Kishitani Miho	Yahoo Japan							
									パネリスト	Takara Kaoru	Disaster Prevention Research Institute (DPR), Kyoto University							
									講演者	李 維森	国家災害防救科技中心							
25	桜2(Room5)	11月27日(月)	13:45-15:15	第4回アジア都市防災会議 (ACUDR) ーアジアにおけるリスクコミュニケーションの実情と課題ー	一般財団法人 地域安全学会	韓国防災学会、台湾災害管理学会		地域安全学会では、行政、住民、専門家といった多様なステークホルダーが参画したマルチハザード対応の地区防災計画づくり支援を通じた、地域社会の災害リスク等の低減に資するリスクコミュニケーションのモデル形成事業に取り組んでいる。第4回アジア都市防災会議の一部として本セッションでは、台湾と韓国の専門家と交え、アジアにおけるリスクコミュニケーションの現状について報告を受けるとともに今後の課題について議論する。	講演者・パネリスト	金 倫希	東義中学校							
									講演者・パネリスト	田中 聡	常葉大学							
									講演者・パネリスト	立木 茂雄	同志社大学							
									講演者	Muroi Chiashi	Head of Tokyo Typhoon Center, JMA, Japan							
26	桜2(Room5)	11月27日(月)	15:30-17:00	Regional Cooperation and Partnerships	ESCAP			アジア太平洋地域内の国々は、最近のESCAP国際委員会において、災害リスク低減とレジリエンスの強化に向けた統一性を強化するため、"Asia-Pacific Disaster Resilience Network (APDRN)"の設立について合意した。このネットワークの鍵となる柱の一つは、マルチ・ハザードの早期警報システム(アーリー・ウォーニング・システム)のための地域プラットフォームの導入である。ESCAP/WMO台風委員会や熱帯低気圧に関するWMO/ESCAPのパネルといった経験に学び、セッションでは、Asia-Pacific Disaster Resilience Network (APDRN)の一部として、地域的な早期警報システム(アーリー・ウォーニング・システム)の導入手順について議論する。	パネリスト	Rasheed Ahmed	Director Meteorology, Maldives Meteorological Services							
									パネリスト	Yu Jixin	Secretary, ESCAP/WMO Typhoon Committee Secretariat							
									パネリスト	Kim SungEun	Associate Economic Aff airs Officer, ESCAP							
									講演者	西山 慎一	神戸大学							
27	桜2(Room5)	11月27日(月)	17:15-18:45	東日本大震災からの経済復興・産業再生	東北大学大学院経済学研究科、震災復興研究センター	公益財団法人地域創造基金さなぶり	震災復興モニタリングと地域経済分析の課題	東日本大震災からの経済復興・産業再生の実態と復興諸政策の検証を行い、被災地経済の将来展望を議論する。	講演者	磯田 弦	東北大学							
									パネリスト	増田 聡	東北大学							
									パネリスト	西山 慎一	神戸大学							
									パネリスト	磯田 弦	東北大学							
									パネリスト	野呂 拓生	青森公立大学							
28	白樺1(Room6)	11月27日(月)	9:00-10:30	Prepare and Respond Better for Emerging Technological Hazards	IFRC		TBD			マフムード ジャミラ	国際赤十字赤新月社連盟事務次長							
29	白樺1(Room6)	11月27日(月)	10:45-12:15	陸海統合地震津波火山ネットワークによる防災・減災	国立研究開発法人防災科学技術研究所			日本では、南海トラフや首都圏における地震が防災上の喫緊の課題である。1995年阪神・淡路大震災を契機に全国くまなく整備された陸域の地震観測網、そして2011年東日本大震災後の対応や南海トラフの地震への備えとして整備された海域の観測網により、日本列島とその周辺は陸海を統合した観測網でカバーされている。本セッションでは、これらの観測網を紹介するとともに、情報の利活用や将来の展望について議論する。	講演者	林 春男	防災科学技術研究所							
									講演者	青井 真	防災科学技術研究所							
									講演者	植平 賢司	防災科学技術研究所							
									講演者	鈴木 亘	防災科学技術研究所							
									講演者	高橋 成実	防災科学技術研究所							
講演者	上垣内 修	気象庁																

世界防災フォーラム セッションリスト(メディア向け)

プログラム番号	会場	開催日	開催時間	セッションタイトル	主催団体名	共催団体名	パネルディスカッション	概要	登壇者カテゴリー	登壇者名	登壇者所属	メディア対応窓口	メディア対応窓口E-mail	メディア対応窓口TEL	取材可否	取材英語対応可否	取材に関する備考	
30	白樺1(Room6)	11月27日(月)	13:45-15:15	津波の広域被害把握に向けた新しい展開	東北大学災害科学国際研究所			最先端のシミュレーション・センシング・地理空間情報の解析技術を統合して、津波発生直後のきめ細かな災害情報の把握や、長期的な津波リスク評価を通じて、災害に対するレジリエンスの向上に資するという目標のもと、我が国の現状・課題、国際展開に向けた課題を議論する。	講演者	長谷川 昭	東北大学							
									講演者	越村 俊一	東北大学災害科学国際研究所							
									講演者	駒田 義誌	内閣府							
									講演者	日野 亮太	東北大学大学院理学研究科 地震・噴火予知研究観測センター							
31	白樺1(Room6)	11月27日(月)	17:15-18:45	メディアが果たすべき防災の役割～平時の啓発を中心に	河北新報社			災害犠牲者をなくすためにメディアは何をすべきか。東日本大震災を経験した被災地新聞・放送の取り組み、海外メディアの現状と課題を共有し、平時からの啓発を中心に、大学などと連携したメディアの防災発信のあり方を考える。	講演者	太田 雄策	東北大学大学院理学研究科 地震・噴火予知研究観測センター	河北新報社 防災・教育室長 武田真一	s-takeda@po.kahoku.co.jp	022-211-1592	可	不可	海外メディアの問い合わせも受け入れられますが、英語対応は不可なので、日本語でお願いします。	
									講演者	武田 真一	河北新報社防災・教育室長							
									講演者	山下 悠哉	仙台放送ニュービジネス開発局減災普及事業担当							
32	白樺2(Room7)	11月27日(月)	9:00-10:30	原子力エネルギー政策の未来～福島原発事故からの教訓	尚綱学院大学森田明彦研究室	台湾大学日本研究センター		第31回中日工程技術研究会(シンポジウム) 能源政策 業人文組(エネルギー産業政策人文分科会)(2015年12月2日、台湾)および同分科会の成果物である日本学術研究書第23号『福島事故後台日エネルギー政策の変換と原子力協力』(国立台湾大学出版センター、2017年5月) <http://www.bunsel.co.jp/ja/hanbaidairi/books/1515-nihongaku23.html> のフォローアップの一環として、福島原発事故以降の原子力エネルギー政策について、国際的・地域的な視点から議論を深める。	講演者・パネリスト	謝 牧謙	国立台湾大学／輔仁大学	森田 明彦	a_morita@shokei.ac.jp	090-9856-5782	可	可		
									講演者・パネリスト	ヤルマン トルガ	オーカン大学							
									講演者・パネリスト	豊田 正和	日本エネルギー経済研究所							
									講演者・パネリスト	森田 明彦	尚綱学院大学							
33	白樺2(Room7)	11月27日(月)	10:45-12:15	世界防災研究所連合(GADR)の理念と展望	世界防災研究所連合		仙台において開催された国連防災会議の直後、2015年3月に世界防災研究所連合は誕生しました。現在、世界各国から130を超える機関の参加をいただき、国連機関や地域別の連合など、連携組織やネットワークも拡大しつつあります。今回の会議では、これらのネットワークのそれぞれの代表やGADRの活動をけん引しているメンバーにご参加いただき、活動の理念と概要をご紹介いただくとともに、会場の皆様方とともに今後の展開の方向性に関して議論したいと思います。	講演者	多々納 裕一	世界防災研究所連合、京都大学防災研究所(日本)	多々納裕一／澤井美智子／Wilma James	secretariat-gadri@dpr.kyoto-u.ac.jp	0774-38-4308 / 0774-38-4651	可	可			
								講演者	コリンズ アンドリュー	世界防災研究所連合、英国災害研究連合、ノーサンブリア大学災害開発研究ネットワーク(イギリス)								
								講演者	スコートン チャールズ	北米防災研究所連合、カリフォルニア大学バークレー校太平洋地震工学研究センター(USA)								
								講演者	クラウスマン エリザベス	世界防災研究所連合、EG 共同研究センター								
								講演者	クルーズ アナ マリア	世界防災研究所連合、京都大学防災研究所(日本)								
								講演者	サマダール サブハジヨティ	世界防災研究所連合、京都大学防災研究所(日本)								
								講演者	マナツァ デズモンド	アフリカ防災研究所連合、ビンツウ科学教育大学(ジンバブエ)								
34	白樺2(Room7)	11月27日(月)	13:45-15:15	持続可能な開発と防災・減災：教育セクターの役割再考	国立大学法人宮城教育大学		持続可能な開発目標(SDGs)の達成を通じて仙台防災枠組を踏まえた防災・減災の推進を進めるにあたり教育セクターが果たし得る役割を議論する。東日本大震災以降の教育分野での実践を共有するとともに、地元の高校、ユネスコ、国連大学、文部科学省などの専門家や実務者とともに学校と地域が協働しての防災・減災のあり方について考えたい。	講演者	川端 和明	文部科学省国際統括官・日本ユネスコ国内委員会事務総長	小田 隆史	fukkou@adm.miyakyo-u.ac.jp	022-214-3296	可	可	宛先確認中ー確認済み 2017/11/10		
								講演者	イ ヒョンギョン(ジャスミン)	ユネスコ・アジア太平洋地域教育局プログラムオフィサー								
								講演者	佐々木 克敬	宮城県多賀城高等学校長								
								講演者	多賀城高等学校災害科学科生徒たち	宮城県多賀城高等学校								
								講演者	フィリップ ヴァウター	国際連合大学サステナビリティー高等研究所主任研究員								
								講演者	見上 一幸	宮城教育大学長・日本ユネスコ国内委員会教育小委員会委員長								
								セッションチェア	小田 隆史	宮城教育大学 准教授								
講演者	池原 充洋	文部科学省国際戦略官																
35	白樺2(Room7)	11月27日(月)	15:30-17:00	防災の主流化を推進する防災投資評価モデルの現状と今後の方向性	パンフィックコンサルタンツ株式会社		防災投資効果を評価可能な代表的な経済モデルの概要を紹介した上で、経済モデルを活用するための各種データの整備状況について共通認識を持ち、現状モデルの課題やデータ収集、モデルの改善・発展性等について議論する。	講演者・パネリスト	横松 宗太	京都大学 防災研究所								
								講演者・パネリスト	小池 淳司	神戸大学								
								講演者・パネリスト	望月 純子	国際応用システム分析研究所								
								講演者・パネリスト	関本 義秀	東京大学								
								モデレーター	望月 純子									
36	白樺2(Room7)	11月27日(月)	17:15-18:45	信仰を基盤とした組織(FBO)による仙台防災枠組への貢献	「宗教と防災」シンポジウム実行委員会	創価学会インタナショナル仙台マスコ、信仰とローカル・コミュニティに関する合同学習イニシアチフ、創価学会インタナショナル	信仰を基盤とした組織(FBO)による仙台防災枠組への貢献事例と他セクターとの連携について	講演者	島園 進	宗教者災害支援連絡会 代表	浅井 伸行	n-asai@soka.jp	080-5957-5044	可	可			
								パネリスト	佐藤 登	仙台マスコ 代表								
								パネリスト	高瀬 顕功	大正大学BSR 推進センター								
								パネリスト	浅井 伸行	信仰とローカル・コミュニティに関する合同学習イニシアチフ								
								パネリスト	新沼 光昭	創価学会								
37	小会議室(Room8)	11月27日(月)	9:00-10:30	地震防災分野における先進的な取り組み	株式会社ケイ・オプティコム、京都大学		京都大学の梅野教授ら研究グループは、複数のGPS 衛星観測局から地震発生前のデータのみを用いて電離圏電子数異常を捉えるデータ解析手法を開発し、東北地方太平洋沖地震や熊本地震の発生前においても電離圏の異常を捉えられることを理論づけ、1時間前から20分前の大規模地震検知(マグニチュード7以上)の可能性を示しました。本セッションでは京都大学梅野教授の研究の紹介に加え、ケイ・オプティコムとの実用化に向けた共同研究の取り組みや、その他地震防災分野における先進的な取り組みについて紹介を行う。(予定)	講演者	橋 俊郎	株式会社ケイ・オプティコム 取締役・事業開発推進室長	ケイ・オプティコム 森俊洋(当日対応は備考参照)	mori-to@k-opti.com		可	未回答	メディア対応窓口情報(当日)：京都大学 梅野教授・ケイ・オプティコム 橋俊郎		
								講演者	梅野 健	京都大学 情報学研究所／数理工学専攻数理物理学講座／教授								
38	小会議室(Room8)	11月27日(月)	10:45-12:15	分野・部門横断的アプローチによる災害に強い社会作りー仙台防災枠組の目標達成に向けた取り組み	公益社団法人 土木学		科学的知識・知見に基づいて防災・減災の意思決定が行われるようにするために、分野・部門横断的アプローチ(TDA: Transdisciplinary Approach)が必要である。本セッションでは、その実践例を紹介し、意思決定の仕組みや事例の背景にある災害の根本原因への取り組みを議論することにより、仙台防災枠組の特にガバナンスの目標達成への道を探る。	講演者	竹内 邦良	山梨大学名誉教授	勝濱 良博	a4766@n-koei.co.jp	029-871-2046	可	可			
								講演者	荒木田 勝	アジア防災センター								
								講演者	倉岡 千郎	日本工営株式会社								
								講演者	米田 雅子	慶応大学特任教授								
								講演者	Rahayu Harkunti	Bandung Institute of Technology								
								講演者	曹 鼎志	Sinotech Engineering Consultants, Inc.								
								講演者	泉 貴子	東北大学准教授								
								座長	竹内 邦良									
39	小会議室(Room8)	11月27日(月)	13:45-15:15	学生によるボランティア活動の軌跡と展望ー東日本大震災後の長期的復興に浸透する若人の力を見つけるー	東北大学高度教養教育・学生支援機構課外・ボランティア活動支援センター	東北大学災害科学国際研究所	学生主体の支援チームによる貢献と課題、展望の明確化	講演者	西塚 孝平	東北大学教育学部	西塚孝平(東北大学教育学部)	kohei.nishizuka@gmail.com	080-1858-6958	可	可		海外メディア(英語対応)も可能です。が、予め質問事項をいただけますとスムーズかと思われまます。	
								講演者	渡辺 華奏未	宮城学院女子大学学芸学部英文学科								
								講演者	Amry Ayril	東北大学工学部機械知能・航空工学科								
								講演者	朝賀 美織	東北大学教育学部								
								パネリスト	西塚 孝平	東北大学教育学部								
								パネリスト	Amry Ayril	東北大学工学部機械知能・航空工学科								
								パネリスト	朝賀 美織	東北大学教育学部								

世界防災フォーラム セッションリスト(メディア向け)

プログラム番号	会場	開催日	開催時間	セッションタイトル	主催団体名	共催団体名	パネリスト/ディスカッション	概要	登壇者カテゴリー	登壇者名	登壇者所属	メディア対応窓口	メディア対応窓口E-mail	メディア対応窓口TEL	取材不可	取材英語対応不可	取材に関する備考	
40	小会議室 (Room8)	11月27日(月)	15:30-17:00	エビデンスに基づいた災害メンタルヘルス対応と防災に向けた屋上~効果的な国際協力に向けて~	東北大学災害科学国際研究所	WHO 健康開発総合研究センター (WHO 神戸センター)		災害対応や防災における心の健康の問題への関心は高まってきており、仙台防災枠組にも書き加えられていますが、依然、見過ごされがちな問題です。また、心の健康の問題は捉え難く、地域や状況により様々な相違を呈するため、心理社会的な支援を必要とする人々に対して支援を適切に提供することは本質的に難しいことでもあります。このセッションでは、被災したコミュニティの心の健康に関する支援や心の健康に配慮した災害への備えをより有効に提供する体制を構築することを旨として、そのために求められる知見の集積や技術の開発・普及に関する現況を確認し、今後の展望を論じることを目指します。	講演者	茅野 竜馬	WHO 健康開発総合研究センター (WHO 神戸センター)							
									講演者	金 吉晴	国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所							
									講演者	金谷 泰宏	国立保健医療科学院							
									講演者	富田 博秋	東北大学 災害科学国際研究所							
									モデレーター									
41	小会議室 (Room8)	11月27日(月)	17:15-18:45	災害時におけるドローンの利活用	慶應義塾大学SFC研究所	一般社団法人ドローン操縦士協会		災害時におけるドローンの利活用をテーマに議論する。近年、大規模災害において調査目的でドローンの導入が進んでいるが、社会実装していくためには、ルール形成や訓練プログラム、技術開発などを進める必要がある。今回のセッションでは「ドローン社会共創コンソーシアム」と「ERCA 4-1505/ピタゴラスの過程に着想した生態系系災機能評価と包括的便益評価手法の開発」の研究内容に基づいた発表を行う。	講演者/パネリスト	古谷 知之	慶應義塾大学総合政策学部教授・SFC 研究所 ドローン社会共創コンソーシアム代表							
									講演者/パネリスト	藤原 一智	一般社団法人ドローン操縦士協会理事長補佐							
									講演者/パネリスト	水上 晃	PwC コンサルティング合同会社 D&DT ユニットマネージングディレクター							
									講演者/パネリスト	TBD	仙台市							
									モデレーター	高橋 伸太郎	慶應義塾大学政策・メディア研究科特任講師							
42	橋(Room2)	11月28日(火)	10:45-12:15	富士通が目指すSDGsの社会課題解決とICT~災害統計グローバルデータベースを活用した国連開発計画の2030年目標達成に向けて~	富士通株式会社	UNDP、東北大学 IRIDeS		本年3月、UNDP、東北大学、富士通は、巨大自然災害からの被害低減を目指す「災害統計グローバルセンター」に設置する統計データベースの構築、運営に関してパートナーシップを締結。「仙台防災枠組」「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に向けたビジョンとICT 活用の可能性を語ります。	パネリスト	小野 裕一	東北大学IRIDeS	日本語対応。酒井 謙二/英語対応。ジュエル アマンテ	(日本語)kensakai@jp.fujitsu.com/ (英語)jewel.amante@jp.fujitsu.com	(日英共に)03-6252-2534	可	可	事前問合せはメールのみでお願いしたい(両名不在にしていることが多い)。2017/11/10	
									パネリスト	Scheuer Jo	UNDP Bangkok							
									パネリスト	藤崎 杜吾	富士通株式会社							
									パネリスト	浮田 博文	富士通株式会社							
									パネリスト	大石 裕	株式会社富士通研究所							
									ファシリテーター	生田 孝史	株式会社富士通総研							
44	萩(Room3)	11月28日(火)	9:00-10:30	AIと災害 = Watson で見る災害 =	日本アイ・ピー・エム株式会社			災害時にはその対応に当たる組織、あるいは一般の人同士でも多くのやりとりが行われる。以前はそれらのやりとりを記録する手段が存在しなかったが、現在ではソーシャルメディア、音声記録、映像録画といった手段で、テキストデータが膨大な記録として残されている。それら膨大なテキストを、IBM のAI (Augmented Intelligence) の一つであるWatson Explorerを使って分析をした事例を中心に、その分析結果の災害対応への利用などについて検討している状況等も紹介する。	講演者	村上 明子	日本アイ・ピー・エム株式会社							
45	萩(Room3)	11月28日(火)	10:45-12:15	Engineering a Solution for Disasters: The Promise of Resilient Infrastructure	世界銀行東京防災ハブ			世界銀行では、過去5年間に渡り年間平均2億ドルを強靭なインフラ開発に投資しており、およそ35か国で70以上のこのほろプロジェクトの支援を行っています。また、世界銀行は「日本-世界銀行防災共同プログラム」を通じ、日本政府と緊密に協力し、質の高い、災害に強いインフラへの投資の拡大をすすめています。これらの背景をもとに、このセッションでは、次の3点を中心に世界銀行の取り組み紹介やパネリストディスカッションを行います。(1) 災害リスク削減を途上国の様々な分野に主流化することの重要性を議論し、そのための機会、課題、また、これまでに学んできた教訓が何かを紹介し、(2) 気候や災害リスクを緩和するため、強靭なインフラの構築が果たす役割(特に交通、緊急対応、建築規制などの分野)を事例をもとに検証します。(3) 質の高い、かつ災害に強いインフラへの投資を拡大するために「日本-世界銀行防災共同プログラム」を通じて、世界銀行が日本政府とどのように緊密に連携しているかを、東アジアと太平洋地域での事例をもとにご紹介します。	講演者・パネリスト	フランシス ゲスキエール	世界銀行 防災グローバル・ファシリテーター 事務局長	Guillermo A. Siercke	gsiercke@worldbank.org		可	可	原則英語での問合せのみ対応可能。	
									講演者・パネリスト	ヨランダ クリスピン ワトソン	世界銀行 主席防災専門官							
									講演者・パネリスト	村上 清	陸前高田市 参与							
46	白樺1(Room6)	11月28日(火)	9:00-10:30	水と災害に関するプラットフォーム-ICT、経済、コミュニティ、ダイナミクス-	国立研究開発法人土木研究所/水災害・リスクマネジメント国際センター (ICHARM)			ICHARM が事務局を務めるInternational Flood Initiative (IFI) は、UNESCO-IHP、WMO、UNISDR、UNU、IAHS、IAHR の共同イニシアティブであり、水災害リスクを軽減するためのプラットフォームの構築を促進している。セッションでは、仙台枠組の具体化に向けて、世界各国における水災害プラットフォーム構築のための活動を共有するとともに、国際組織等による支援を含め、水災害に対する取り組みを促進する方策について議論する。	講演者	喜連川 優	東京大学生産技術研究所、国立情報学研究所	宮本 守 国立研究開発法人土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター (ICHARM)	mmiyamoto@pwri.go.jp	+81-29-879-6779	可	可		
									講演者	吉野 直行	アジア開発銀行研究所							
									講演者	大原 美保	土木研究所ICHARM							
									講演者	江頭 進治	土木研究所ICHARM							
									パネリスト	喜連川 優	東京大学生産技術研究所、国立情報学研究所							
									パネリスト	吉野 直行	アジア開発銀行研究所							
									パネリスト	大原 美保	土木研究所ICHARM							
									パネリスト	江頭 進治	土木研究所ICHARM							
									パネリスト	Solidum, Jr. Renato U.	Department of Science and Technology (DOST), Philippines							
									パネリスト	Karunawardena Asiri	National Building Research Organization (NBRO), Sri Lanka							
									パネリスト	Jose Antonio Marengo	Centro Nacional de Monitoramento e Alerta a Desastres Naturais (CEMADEN), Brazil							
									パネリスト	Malik Manzoor Ahmad	Pakistan Council of Research in Water Resources (PCRWR), Pakistan							
									モデレーター	小池 俊雄	土木研究所ICHARM							
47	白樺1(Room6)	11月28日(火)	10:45-12:15	自然災害デジタルアーカイブの必要性	東北大学災害科学国際研究所			本セッションでは、防災におけるデジタル・アーカイブの利活用について報告する。まず、アーカイブの主な役割が、知を集め、データを管理・保護するだけでなく、新たな知の創造やアーカイブの活用(調査、教育、応用)を通して、防災にどのように寄与するかのプレゼンテーションとする。さらに、デジタル・アーカイブの利活用を増やすために、既存の試みの成功事例と失敗事例についても議論する。最後に、防災に関わる教員、研究者、専門家によるアーカイブの利活用の未来についてオープン・ディスカッションを行う。	講演者	Afan Muzailin	Syiah Kuala University							
									講演者	Slater David	Sophia University							
									講演者	Morimoto Ryo	Harvard University							
									講演者	Yamao Toshitata	Kumamoto University							
									講演者	Inoue Sachiko	National Diet Library							
									講演者	Shibayama Akihiro	Tohoku University							
									講演者	Penmellen Boret S bastien	Tohoku University							
48	白樺2(Room7)	11月28日(火)	9:00-10:30	仙台防災枠組に対する看護の貢献	世界災害看護学会/日本看護系学会協議会	日本放射線看護学会、日本老年看護学会、日本看護科学学会、日本看護系学会協議会、日本赤十字看護学会、日本災害看護学会		国内外の学会組織を中心として、取り組みの現状と課題を明らかにする。その上で、今後どのように4つの優先行動に取り組んでいくのかについて、国内外の学際的なステークホルダーと共に議論したい。	講演者	南 裕子	世界災害看護学会 (日本災害看護学会)	南 裕子/山本 あい子	minami@cc.u-kochi.ac.jp/a.yamamoto@cnas.u-hyogo.ac.jp	088-847-8762, 090-8980-1509/078-925-9646, 090-5055-0476	可	可	コンタクト先2か所。	
									講演者	山本 あい子	日本看護系学会協議会							
									パネリスト	小西 恵美子	日本放射線看護学会							
									パネリスト	松岡 千代	日本老年看護学会							
									パネリスト	山本 則子	日本看護科学学会							
									パネリスト	内木 美恵	日本赤十字看護学会							

世界防災フォーラム セッションリスト(メディア向け)

プログラム番号	会場	開催日	開催時間	セッションタイトル	主催団体名	共催団体名	パネルディスカッション	概要	登壇者カテゴリー	登壇者名	登壇者所属	メディア対応窓口	メディア対応窓口E-mail	メディア対応窓口TEL	取材不可	取材英語対応不可	取材に関する備考	
49	白樺2(Room7)	11月28日(火)	10:45-12:15	地球観測技術の災害対策・災害対応への連携的な活用	Global Partnership on Space Technology Applications for Disaster		Risk Reduction (GP-STAR)	The Global Partnership on Space Technology Applications for Disaster Risk Reduction(GP-STAR)は、2015年3月15日に仙台で開催された第3回国連防災世界会議の開催期間中に設立された。設立の目的は、地球の観測や宇宙を基盤とした技術の利用、及び仙台防災枠組における当該技術の活用を推進することである。本セッションでは、地球観測や宇宙技術を基盤とした技術を防災における取組に導入することで、いかに仙台防災枠組の目標達成の評価に寄与するかについて、参考となる事例を交えて紹介する。	講演者	Eguchi Ronald	ImageCat Inc.							
									講演者	川北 史朗	宇宙航空研究開発機構(JAXA)							
									講演者	山崎 文雄	千葉大学大学院工学研究科							
									講演者	越村 俊一	東北大学災害科学国際研究所							
									パネリスト	Ronald Eguchi	ImageCat Inc.							
									パネリスト	越村 俊一	東北大学災害科学国際研究所							
									パネリスト	山崎 文雄	千葉大学大学院工学研究科							
									パネリスト	松岡 昌志	東京工業大学大学院総合理工学研究科							
50	小会議室(Room8)	11月28日(火)	9:00-10:30	地震津波による海洋生態系攪乱・生態系の回復と海辺の暮らしのより良い復興を目指して	東北マリンサイエンス拠点形成事業	ユネスコ地球科学および地質災害リスク部門	沿岸域eco-DRR 確立を目指した行動計画	巨大地震と津波は、漁業を含む海洋生態系を攪乱する。海洋生態系および沿岸環境の回復をモニターし、その成果を行政および漁業者をふくむ市民と共有する事を通じて沿岸の復興が加速される。東北マリンサイエンスの活動を世界の沿岸諸国と共有し、地震津波からの防災減災に向けた行動指針を策定する。	講演者	松田 治	広島大学							
									講演者	北里 洋	東京海洋大学							
									講演者	Kuanui Pataporn	Chulalongkorn University, Thailand							
									講演者	Soto Oyarzun Eulogio H.	Univeristy of Valparaiso, Chile							
									講演者	Wibisono Yoyok	Office of Wetlands International in Indonesia							
									司会	安川 総一郎	UNESCO							
									パネリスト	松田 治								
									パネリスト	北里 洋								
									パネリスト	Kuanui Pataporn								
									パネリスト	Soto Oyarzun Eulogio H.								
パネリスト	Wibisono Yoyok	Office of Wetlands International in Indonesia																